

キーワード 開き・仮説・検証の三要素	キーワード 質問
<p>具体的な内容</p> <p>討論会において、ステップチャートを作成するときの三要素。仮説は問い合わせの答えに、でもその予想にし、検証は問い合わせの答えを見つける方法を考へた。今回の場合は、討論会の聴衆といふ視点で調べる方法を考へた。私は、今回限られた方法で調べなければならぬが、その中でも自分の調べたいものを知るために方法を考えた。そのためには追究する力を高めたのではないかと思う。</p>	<p>具体的な内容</p> <p>討論会で相手の手で言っているのを音読や、主張と理由を組みつけさせたり、そのための根拠についてを開くこと。</p> <p>この場合はPAH、相手の意見を活かすため相手の意見を信頼していくのではなく、それを成した。それが自分以上であるとしてそれを引き上げる質問、相手を下に落として追及する質問といふのができただった。決してPAPHに対する質問の傾きではなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して身に付いた力・発揮した力 <ul style="list-style-type: none"> 矢印たちの力を活用する力 相手の答えを引き出せる力 問い合わせ・仮説・検証の三つをしっかりと組み付ける力 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生かせそうな場面 <ul style="list-style-type: none"> 話し合いで、アレコレ 意見交換を行った あとで、その内容を深めるために質問
<p>理解が足りなかつたこととその対策</p> <p>私自身への回答を打ちながら走りながらと思う。質問から何が聞きたいかが分からず、アレコレと“う”“う”“う”まで言えず、上いかが分からなくなってしまった。だから、発表などを通じて、どうぐいのPAHをしたくなるのが、よくあることが“あつた”と思つた。</p>	

単元の学びを振り返ろう	
キーワード 討論のメリット	キーワード 視点
<p>具体的な内容</p> <p>実際に討論をしてみて、最初は相手意識や多角的な視点が身につくという事を挙げていたが、それだけではなく自分の意見を発展させ、よりよくするというはなしをもすると感じた。討論の準備や相手からの反論を新たな命題をもたらすことによって、どのような命題を通じて自分が意見の主張や理由、根拠が明確になっていて、論理的で良い意見になっていくのかはないかと考えた。</p>	<p>具体的な内容</p> <p>討論では、他の視点に立つかによってそれなりの意見への考え方変化した。物事には様々な側面があり、一つの意見でも、良い面と悪い面とどちらもありことがあるので、どちらかの立場に片寄ってしまうのはなく、様々な視点を考慮すること、また、討論の過程で、その意見の良い側面を強調し、悪い側面を改善していくことで、よりよい意見にして発展すること、が日常生活においても生きるのだけばかりであった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して身に付いた力・発揮した力 <ul style="list-style-type: none"> 物事を多面的に・多角的に考える力 論理的に考え、論理にまとめる力 意見に説得力をもつて相手を納得させる力 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生かせそうな場面 <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発表するとき
<p>理解が足りなかつたこととその対策</p> <p>反論に対して、すぐに答えるのが苦手ではあったのを、もっと意見の方向性をしっかりさせ、深く考えられていくと良かった。</p> <p>→思考ツールを用いて考え方を視覚化（言語化）していく。 →反証を施して考えておく → 共通理解しておく</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生かせそうな場面 <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発表するとき

単元の学びを振り返ろう

キーワード まとめ	キーワード つながり
具体的な内容 6人で1つの主張をするときに、「まとめる」作業が一番大変だったように思います。6つの資料をいかに上手に組み合わせ、分かりやすく矛盾がない、そして主張・理由・ヒストリーなど構成にするか、毎時間とても悩みました。1人だと自分が調べたことを自分が活かし、発表に向けてまとめるという簡単そうな作業でも、6人でやるとなれば「それそれが全く別の方向へ話を展開するかもしれない」ので、大変な作業だというのに気がきました。この「まとめる」という作業を複数人の資料から行うときは、まずは論じる段階で全員が発表の完成イメージを持つことで、少し苦労も減るのではないかと思います。	具体的な内容 論理的に意見を組み立てることが、相手に納得してもらう上で重要だと考え、ただ多くの根拠を集め、PSの理由と結びつけて満足していました。でも環境グループの討論会を見ていると、根拠だけでは「論理的」な発表は出来ないことに気がきました。もちろん、理由に合った根拠があることでは説得力は増えます。ですが、「論理的」であるという為には主と理由のつながり、主題(テーマ)と主張のつながりなど情報を同じつながりで重要なと考えました。そのつながりがはっきりしていたグループの発表は理解しやすかったです。やはりつながりは大切なのが大切だと思いました。
学習を通して身に付いた力・發揮した力 意見をまとめる力 論理的な構成を考える力	学んだことを生かせそうな場面 <ul style="list-style-type: none"> • 理科の考察 <p>→ 実験結果などの根拠を基にいえることを考え、自分なりにまとめるから。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会の「問いか」に対する予想 <p>→ 時代背景や用語など、自分が知っている根拠から予想を展開させるから。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレゼンテーション→自分の意見を分かりやすく、伝わりやすく表すことが大切だと思ったから。
理解が足りなかつしたこととその対策 上手に思考ツールを活用できなかった。 → 魂考を広げると、まとめと同時にどんなツールか使えるのかを知り、授業やBTの中で使うほうは積極的に使うことで活用することに慣れています。	

単元の学びを振り返ろう

キーワード 主張と根拠の関係	キーワード 情報の活用
具体的な内容 主張がテーマとすれば根拠と主張の関係が弱い場合、発表の信頼性が低くなったり聞きたくない・伝えたくない・答いがたいなどの問題が発生します。根拠があればそれだけで主張が強くなることがあります。そのためにはテーマと主張が関係がない場合は、信頼性が低いので二つ合わせて参考文献を確認することで、根拠の有無については考え方や根拠が正しいかどうかを検討します。その後根拠に対してどのような見方をするかによって見方はずつであります。そのため根拠に対する見方によって、根拠が正しいか見つけられずして不思議な印象や聞き手が理解できず、根拠を見つめずにすこいで理解できないことがあります。そのため根拠と主張の関係性を整理して欠点を見つけたり、資料を整理して意見を述べたり、根拠が主張の支持を図るために意見を述べたりします。	具体的な内容 グラフなどからつながりを伝えるときには、それでも主張を伝えていて、主観的アングラフを見てしまう偏った見方をしてしまう。これは発表の信頼性であり原因になります。そのため防ぐべきです。そのためには、グラフに対してもしっかりと視点を書き出して、異なる見方(複数の見方)を書いて見て、自分の視点を書き出して、異なる見方(複数の見方)を書いて見て、自分の見方を書き出したら、それを他の見方と一緒に見て、見方を複数あることを理解してから、それをまとめて一つの見方として見ようとする。しかし、見方を複数あることを理解してから、それをまとめて一つの見方として見ようとする。
学習を通して身に付いた力・發揮した力 主張と根拠との関係についての関係性から発表の質や主張の信頼性について考える力、必要な情報を得るために根拠について伝えたい内容を明確にしたり、資料が表している情報を正確にとらえる力、情報同士の関係性を整理して欠点を見つける力、資料を用意する力	学んだことを生かせそうな場面 <ul style="list-style-type: none"> • BTの質疑応答、調査研究、社会のレポート(資料の活用) • 各教科で考察から自分の考えを表現する場面 • 自分の行動の理由を説明する • コースなマスメディアの情報を見て、知識を高めようとする • 自分で行動力を決めてから • 同じ意見に向かって意見を立てること • プレゼンを行うとき

● キーワード 能度	● キーワード 意見
○ 具体的な内容 「あき算木柄について意見を出し合って言論会を行なわれること」この单元で最初に討論会を行なうときの模範回答として提示された。これが、これまでの意見を討論会にしていくときには参考にしていくべきだと思ひます。しかし、今回の2つの意見に対する2つの意見のどちらとも自然にこなしていけると思います。そこで、討論会にしていくんじないかと思ひます。そして、これは全員の態度が大きく関わっていると思います。そして、これは全員の態度が大きく関わっていると思います。	○ 具体的な内容 ステップカードの仮説でも書いたように、最初は大規模な討論会は誰の意見があるために自分の意見を確立することができるまではないかと思ひました。(今回討論会も大規模に入ります)も、と言えれば、意見を決める場として小人数でない場合討論会として考えれば、それが決まりきされてしまうんじゃないかな?と考えてしまふ。しかし、討論会が終わると、意見が100%変わってしまう。意見にまとめることが研究してみると、全体として一つの意見にまとめることが出来なくとも、私自身は意見を決めることが出来ない。なぜなら、自分自身は意見を決めることが出来ないから、自分の意見は日本人の意見を決めていくと思います。そのため、討論会は日本人の意見を決める場としていいと思う。しかし、意見を持つたくて思ひ出します。
○ 学習を通して身に付いた力・発揮した力 今回の学びでは、準備期間よりも討論会の中で学ぶことしかつかないと思っていました。音楽会という場としては要点を深く理解していくことで、音楽会の運営者として運営していく。自分自身が運営者として運営していくことは、限られた時間の中で「木だけ質問に対する準備が充実するか」という所や頭の回転をいかせるところです。	● 学んだことを生かせそうな場面 先年から授業中にも持ちついでいたように、BT、手帳、発表すると主に「ここを生かせる」と考えました。ステップカードのように聞くや復説などを考えれば、「自分のナハ生」と「アハ生」と確にならしめなければならないことをどこかで学習を振り返りながらいからう。たとえば、自分なりに分かりやすい言葉を使うことでも大切だとおもいます。 五つ以下でまとめておきたい。
○ 理解が足りなかったこととその対策 自分達の言論とそれにに対する質問について、「データを求める質問は、より直接の主張の核へ」についてくるようなものは「なぜか」という言葉を「フレーズ」の中でした。これは直接の主張をつぶさに理解するためには、自分自身が何を想いかが良か、そのため自分自身が理解をつぶさに理解するためには、良い意味で刺激的な質問をすることが大事だと思った。	

● 単元の学びを振り返ろう	
● キーワード 多面的な見方	● キーワード 値段の引き討論
○ 具体的な内容 豊富な知識や量と多面的な見方は別。情報が多くても、それを「手て舞わねば」れば、意味がなく、逆に1つの根拠しか、色々な考察を働きかせ、理由や主張について「大事。印象から意見交流を大事にしたい」本を読むことが必要だと見た。	○ 具体的な内容 多面的な見方を。全ての人から理解していれば、反論、質疑は1つで済むはずなのではないか?しかし、質疑が終わらず、聞くということは、質問の意図がわからず、かっていり、多面的という言葉の目的につながっていかなければ、自分の行動が的確でない、無駄が多い。
○ 学習を通して身に付いた力・発揮した力 ● 理由と根拠の合致を見極める力 → 理由を裏づけるのに、必要な根拠の量や内容の判断を半判断してみた。	● 学んだことを生かせそうな場面 フレゼン → 自分の意見を簡潔に述べるとき ・ 言論 → 相手の意見を聞き、多面的に物事をとらえよう

単元の学びを振り返ろう

キーワード	立場の違い	キーワード	情報
具体的な内容	今回の討論ではどの意見に賛成派と反対派で分けられではなく個々に主張を挙げて、討論した。つまり、オペレーターのようにお互いに違う意見のぶつかりで口論がされた。だから「〇〇の意見には賛成ですがXXの部分は違うのではないか」という意見もあり、実際に自分が思うこともあつた。私はそのほうがいいと思った。お互い裏反対の意見だと一部を認めた全員を認めることで、自分たちのいい意見でも満足になかず小さな点から意見を述べる。だから他の人の意見に対するアピールよりも自分の意見が相手の人から親切に思われる。どちらかで今回の方式が正しいかと思う。ただし意見を出す意見を討論する場合では相手の意見を探してより否定意見が次々と出てくるため自分の意見を出すことは違うのではないか。 も場合下手なやつが多かった気がする。	具体的な内容	長い討論により多くの意見があり確実な情報を必要だった。多くの情報の中から何をどこで解決する。しかし確実性が高い情報は少ないとして見つけた。例えは「個人の意見」には多くの情報があるからといってそれが良い意見ではない。しかし「個人の意見」には多くの情報がある。公式サイトで情報を得るが一番確実だ。 ただし、インターネットは多くの情報を得るが必ずしも良い情報である。しかし年齢で見ると多くの人が情報を見たり、車の操作で意見を部分で見分けることが大切だ。 私は、近くでモニターなどで参考程度に使うようにした方が
学習を通して身に付いた力(發揮した力)	協力性(組内で話し合い・ターンアップ、司会進行力)	● 学んだことを生かせそうな場面	プレゼン 読書 会議 BT 国語の学習 親(?)と説得すること 直接
責任性(会話を他の役割者任せにして字力)	○ 理解が足りなかったこととその対策 協力性 → 他人の行動をチエヒ示し、理解してもらうと進歩具合等 発表 → 自分がやつて方からこそ先に考え方。 → 本音ハナハナを具体的に不思議で伝えようとした 話で下り子がった。 → シレズつ発表の際に直していく。		